

平成 23 年度
深谷市環境エコ川柳優秀作品一覽

< 特選 >

怖いのは電気とCO₂（ガス）のリバウンド
(宏ちゃん)

< 準特選 >

朝顔の木漏れ日に寄る本の虫
(穂に穂)

打ち水とヨシズを張ってエコライフ
(西尾八郎)

< 佳作 >

扇風機 ON・エアコン OFF のエコ家族
(持田義男)

真冬までとっておけぬかこの暑さ
(河田 操)

節電はうちわうち水クールビズ
(丸橋 進)

こんにちはゴーヤの向こうで声がする
(けん坊)

ゴーヤ陰日差し遮りうとうと
(田部井光男)

第4回 深谷市環境エコ川柳の選考を終えて

募集期間が夏の盛りだった為、夏のエコが多かった。四季を通した作品も見なかった。

<特選>

○「怖いのは」の句

東日本大震災後さらに省エネが叫ばれる中、私達は今までの考え方や、暮し方を見直さなければならなくなって来た。計画停電や資源の再利用もその一つ。この句は下5の「リバウンド」が効果的に使われていて、句を引き締めている。また、日本の未来を方向づける作品にもなっている。

<準特選1>

○「朝顔の」の句

この句は夏の暑い盛りに咲く朝顔がエコの題材になっている。中7の「木漏れ日」は冬の零れ日とは違い、強烈な日差しを感じる。多少のぎこちなさがあるが言葉の調べが良かった。特に下5の「本の虫」は作者自身のことばで表現されていて好感を持った。(参考:朝顔は季寄せでは秋の季語)

<準特選2>

○「打ち水と」の句

この句も夏の省エネを詠った句です。打ち水、ヨシズ、エコライフと特別な言葉は使っていませんが、リズム良く5, 7, 5にまとめました。

<佳作1>

○「扇風機 ON」の句

この句は扇風機でエコに貢献しているという句です。独特の作風が類想句のない作品を作り出しました。川柳は5, 7, 5の17音字ですが、その17音字を最大限に活かしました。字数も17字ぴったりでした。

<佳 作2>

○「真冬まで」の句

そのとおりです。冬は夏に、夏は冬に再利用できたらどんなに良いことか。
中7の「とっておけぬか」の問いかけが作品に膨らみを持たせた。

<佳 作3>

○「節電は」の句

この句は非のうちどころない完成された作品です。しかしそれだけに類想句も多く作られています。もしこの句が5, 6年前に発表されたならば、特選に選ばれたと思います。

<佳 作4>

○「こんにちは」の句

えっ！この句がと思う人がいるかも知れません。川柳はこれでいいのです。分かり易い言葉で、分かり易く作ることが基本です。欲を言えば、下5にもうひと工夫欲しかった。

<佳 作5>

○「ゴーヤ陰」の句

この句も前句と同様に、おとなしい気がしましたが、作者の真摯な心が伝わってきました。ゴーヤ陰の「陰」や「遮る」の表現方法に推敲のあとがみられます。

選者吟

限りある資源と共に生きてゆく
復興の町に咲かせるエコロジー

てじま晩秋
酒井 青二